

Y25a **2012年金環日食の日本での見え方と人口分布**

齋藤 泉, 海部宣男, 大西浩次, 大川拓也, 大越 治, 佐藤幹哉, 篠原秀雄, 塩田和生, 塚田 健,
松尾 厚, 三島和久, 森 友和, 山田陽志郎 (2012年金環日食日本委員会)

2012年5月21日(月)の朝、日本全域を含む広い範囲で日食が起こる。そのため、日本中で大きな話題になると思われる。なかでも、多くの人々が居住する九州南部・四国の大部分・紀伊半島から関東付近にかけた帯状の範囲(金環帯と呼び、神戸・大阪・京都・名古屋・横浜・東京などを含む)では、太陽の周辺部分以外を月が隠し、太陽の縁のみがリング状に輝く「金環日食」が起こる。日本で金環日食が起こるのは、1987年に沖縄地方で見られて以来、25年ぶりとなる。日本のその他の地域でも太陽が大きく欠ける「部分日食」となり、その欠け具合は前述の帯状の地域に近いほど大きくなる。この日食は、観察地点によりその見え方は違ってくるが、おおむね午前6時すぎに始まり、午前9時すぎに終わる。金環食になるのは午前7時半頃で、金環食の継続時間は国内で一番長い地点で5分間程度である。

本講演では、日本各地における食分の予報と、人口の分布から求めた金環食を観測可能な総人数について報告する。例えば、全国各地の市町村役場の所在地が、金環帯に入っている/入っていないで分類し、(平成17年度国勢調査のデータに基づき)入っている市区町村の人口総計を求めたところ、約8千3百万人という結果を得た。すなわち、総人口約1億2千7百万人のおよそ65%に相当する。これは、実に日本人口の約3分の2もの方々が、居ながらにして、金環日食を見ることができていることを意味する。金環帯外でも、深い食分で、弓なりの形の太陽を見る事ができる。ここで、それぞれの食分ごとの人口分布を求めることで、2012年の金環日食が日本国内で史上最も多くの人々が観測可能な(金環)日食であることを示す。